

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500304		
法人名	社会福祉法人 宇津野会		
事業所名	グループホーム金矢 北町ユニット		
所在地	〒025-0304 岩手県花巻市湯本第19地割380番地1		
自己評価作成日	令和2年11月18日	評価結果市町村受理日	令和3年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、自然の中であり四季を感じられる環境にあります。施設内は空間が広く、2ユニット全体が見渡せる造りになっており入居者様同士の交流が図りやすい環境となっています。2ユニットの職員が連携を図り対応しています。入居者様には、出来ることは積極的に行っていただき役割や生きがいにつながるように支援しております。入居者様と共に、プランター栽培で数種類の野菜作り、季節のお花、ハーブ作りに取り組み、季節を感じながら収穫を行っています。身体機能の維持向上の為毎日体操を実施し特に下肢筋力の運動に取り組んでいます。季節感をじれる行事食を定期的に行い食事を楽しめるように工夫しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月16日

現在の理念は、2年前に職員全員が参加して話し合い、納得しながら新たに策定したものであり、毎日全員で唱和するなどして共有化に努め、日常のケアに反映されている。また、コロナ禍による外出制限が続く中、職員の提案に基づき、事業所の中で「模擬喫茶店」などを開催して、メニューの中から利用者が選んで楽しむようなイベントも実施している。更に、家族との面会についてはオンライン面会を開始しており、利用者と家族の気持ちに寄り添う取組みが進められている。開設3年目となり、地域との連携や交流についても注力しており、災害時の避難訓練では地域の協力者も参加していただき、今後は民生委員等への協力依頼にも力を注ぎたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念や目標を話し合い理念・目標を定め、事務所内に掲示している。申し送りの際に理念と目標を唱和、確認をし理念にそったケアの実践へつなげている。	2年前に全職員が参加して話し合い、新しい理念を作成した。「ともに歩み、ともに支え、ともに暮らす」の理念を事務所に掲示し、「笑顔、気付き、報連相」の行動目標と併せて、毎朝の申し送り時に唱和している。理念の考えを日々のケアに活かし、利用者に寄り添う姿勢の基本となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、ボランティアの受け入れや地域行事への参加を控えており、昨年に比べ交流は減少している。施設周辺散歩時に地域の方とお会いした際に挨拶等交流を図っている。	コロナ禍で今年は中止しているが、普段であればアニマルセラピーや傾聴ボランティア、地域の祭りの神輿が来訪したり、湯本中学生徒との交流活動などが行われている。町内会には未加入だが、区長さんから市の広報を届けていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方より認知症介護についての問い合わせを受けることがあり、認知症の方との関わり方、支援について相談対応している。来所した方へ施設の特色や取り組みを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、地域協力員、地権者、入居者様、家族様、地域包括職員、施設管理者、計画作成担当者、施設職員が出席している。施設サービスの内容を公開し、意見を伺い日頃のサービスに反映するよう努めている。	今年はコロナ禍のため、5月以降書面開催としている。行事や利用者の状況のほか、事故報告やヒヤリハットの報告も行っているが、特に意見等は寄せられていない。委員として、地域包括支援センター職員や知見者、地域協力者等が委員として参加していただいているが、民生委員にはまだお願いできていない。	地域の関係者が委員として参加していただくことは、事業所の運営に有益であり、民生委員や町内会役員等の参加が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とこまめに連絡を取り合い、連携を図り対応している。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加し事業所の状況を熟知していただいている他、市役所の地域福祉課や介護保険課には様々な照会を行うことなどが多く、丁寧に対応していただいている。生活保護受給の利用者には、市の担当ケースワーカーが来訪して面接している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の職員会議等で研修を実施し、理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を作成済みであり、委員会は毎月の職員会議と併せて開催している他、研修会も定期的に開催している。ベッドセンサーの使用者は、今はいない。スピーチロックについては、全体会議の中でもしばしば話題としており、職員は、利用者の気持ちになって声掛けするように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で研修を実施し理解を深めている。介護者の心身を健全に保ち、心の余裕を持ち介護を行うことで虐待防止につながるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で研修を実施し理解を深めている。制度の利用が必要な入居者様を関係機関へ相談し制度利用へつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず施設に来所しての予約申し込みをお願いしており、施設見学をして頂いている。予約申し込み時、入居審査会の通過の連絡時、契約書類提示時ごとに契約内容の説明を行い理解されているか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当職員を決め、意見や要望を把握できるようにしており、記録や申し送りを通し情報を共有しサービス内容に反映できるよう努めている。ご家族様へ電話連絡や来所時に話をする機会を持ち相談しやすい関係づくりを行っている。	家族には毎月、写真も添えて生活状況を伝えているが、在宅時とは違う良い表情を見ることが出来たとの感想もいただいている。コロナ禍で家族との面会もできない状況だが、通院の際の来所機会を捉えて、家族からの相談等に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り等を通し、各職員の意見の把握を行い、事業の運営へ反映している。	職員会議などで、職員から意見が出されている。発言の少ない職員には、発言の声掛けもしている。職員から洗濯干し場の改善意見が出され、具体化して改善できた例もある。資格取得の支援にも力を入れている。管理者との個人面談は、年2回実施している。	

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題点の把握と対策を随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では毎月、テーマを変え勉強会を行っている。研修や資格取得などの情報を随時回覧している。働きながら資格取得できるように環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会に所属している。そこで交流を図りサービスの質の向上に活かしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当職員と計画作成担当者が中心となり、ご本人様の意向を伺い、不安を解消し安心して生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意向や不安等を丁寧に聞き取りし、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時に丁寧にアセスメントを行い、本人様やご家族様の意向や課題を把握しプラン内容に反映させている。職員間で話し合いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに歩み ともに支え ともに暮らす」理念のもとに日課の家事等を一緒に行い、生活感を共有できるように努めている。家族のように話ができる関係づくりを心掛けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の支援の必要性を説明し、入居者様と関わる機会を無くさないよう努めている。家族様へタイムリーな情報共有を図るために、主の生活の様子が分かるよう連絡・面会・広報活動等行っている。面会の機会が無くならないようオンライン面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰れる機会を作れるよう家族様と相談したり、了承を頂きながら面会や外出を通して交流を継続できるよう支援している。	コロナ禍に対応して、11月からオンライン面会を始め、関東方面に居住する家族が多く利用していただいている。馴染みの美容院に家族が連れて行く方もいる他、理容師が毎月来訪しており、ともに馴染みとなっている。アスパラや大根等を差し入れしてくれる近所の農家の方も利用者の馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様子観察行いながら入居者様同士の関係性を把握し孤立しないように座席の配慮や会話につながるレクリエーション活動内容等も工夫して行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は問い合わせがあった時に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当職員と計画作成担当者が中心となり行っている。本人様の意向を傾聴するよう努めている。	多くの利用者が言葉で思いや意向を話すことができ、出かけた、食べたい等の要望を聞き出し、出来るだけ対応している。利用者すべてに寄り添うことができている。外出の希望に沿えない状況のため、今年はホーム内で外出の気分を感じてもらおうと、「模擬喫茶店」を開いたりして楽しむ工夫を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室担当職員と計画作成担当者が中心となり行っている。		

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当職員と計画作成担当者が中心となり行っている。日々の生活の様子を観察し状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議を行い、状況の把握と課題に対しての対応について話し合い、介護計画へ反映している。	計画作成担当者が居室担当者や家族、医療関係者からの意見や情報を集約し、モニタリングも行いながら原案を作成し、職員カンファレンスで話し合い決定している。入居間もない時期や入退院時、状態の変化等に応じて、3か月から6か月毎に、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はその都度記録し、毎日の朝礼や申し送りで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況に応じて、通院時の対応や買い物支援、外出や外泊への支援等行いご本人様が安心して過ごせるよう柔軟な支援を心掛け取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の意向を確認し通院されている。かかりつけ医に健康状態を相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を利用している方が多い。通院対応は基本的に家族にお願いしているが、家族が高齢の場合などは職員が対応している。また、地域のかかりつけ薬局を利用しており、利用者毎の分包のほか、医療相談にも対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されていないため、かかりつけ医とかかりつけ薬剤師に相談している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院のマニュアルを作成し、それに沿って対応している。入院時は情報提供書を提出し、医療とすみやかに連携が図れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状や健康状態について本人様や家族様、かかりつけ医と話し合い対応している。本人様、家族様の意向を確認しながら施設で対応できることの説明を行い、方針を共有し支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合の対応や看取りは行っていないことを説明している。これまでに、重度化して特養ホームに入所した方もいる。看取りについては、協力医の確保ができないため、まだ経験していないが、希望する家族や利用者もおり、中期的な課題と捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急情報シートの活用・緊急時のマニュアルに沿って研修を実施し理解を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し避難方法、経路の再確認を行っている。地域住民に協力をいただきながら避難訓練を実施し協力体制を築いている。	ハザードマップでは水害や土砂崩れの危険地域とはなっていないが、大雨等での避難指示等が発令された場合には、近接にある同一法人のケアハウスへの避難を予定している。避難訓練は年2回実施しており、1回目を10月に地域の2人の協力者にも参加していただき夜間想定で実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話を傾聴し、コミュニケーションを図りながら個々に応じて丁寧な対応を心掛けている。状況に応じて座席を変更したり、環境を整備し安心して過ごせるよう対応している。	特に入浴や排泄介助の際には、各利用者の気持ちに配慮したケアを心掛けている。トイレ誘導の際には、トイレという言葉でなく「お部屋に行こう」と声かけたり、着替えもバスタオルで隠したり の配慮は欠かさない。写真使用については、事前に家族の承諾を得ている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺い、自己決定できるよう開かれた質問をするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしく生活ができるよう、一人一人のペースを大切に入居者様の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度床屋に来ていただいている。美容院を希望される方は家族様に対応をお願いしている。季節ごとに衣類の調整を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や食器の配置を職員と一緒にしている。食事の好み、味のバランス、色合いを気をつけている。行事食では旬の食材を取り入れ、食事を楽しむことができるよう工夫している。食事中は音楽を流しゆったりとした雰囲気ですべてがとれるよう対応している。テーブル拭き、お盆拭き等は仕事として積極的に入居者様が取り組まれている。	献立はケアハウスの栄養士が品目等を決め、利用者の希望も聞きながら、その日の担当職員が調理している。ひつまみ等の郷土食を利用者から教わることもある。利用者は下拵えや食器拭きなどを良く手伝っている。食事時には職員の提案でクラシック音楽を流すことにより、落ち着いて食事に集中できて誤嚥防止にもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や入居者様の習慣の把握に努め、状態に応じて主治医に相談し、食事内容や水分量等調整している。体重測定を毎月実施し体重管理に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行い、一人でできない入居者様は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら、定時のトイレ誘導や個別に応じてのトイレ誘導等入居者様の体調や状態に応じての介助を行っている。	各居室にトイレがあり、排泄チェック表を活用してトイレ誘導を行っている。全体では6人が自立、夜だけオムツの方が3人で、多くの方がリハビリパンツとパッドの使用となっている。入居後に薬の整理によって排泄の改善が見られることもあり、トイレ利用の維持に注力している。	



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し排便状況の把握に努めている。便秘予防として便通を良くする食品を使用した食事の工夫や水分補給の声掛けを行っている。便秘の方は主治医へ相談しながら排便コントロールを行っている。毎日運動する機会を持ち便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく安全に入浴ができるように入る順番やタイミング等も考慮しながら支援を行っている。	入浴は、週2回、月曜と木曜日の午後を基本としている。一般浴槽は大きめとなっており、2、3人で入浴している。他に機械浴槽があり7人が利用している。入浴を嫌がる場合には無理せず、根気よく対応している。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や生活習慣に応じて休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等をファイルに綴り、内容の把握や確認を行っている。薬の変更があった時は経過観察を行い記録に残し申し送りするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様とコミュニケーションを図りながら、生活歴の把握や興味のあることを引き出し、日々の活動内容につなげ、やりがいや役割を感じる機会を増やすことができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に出かける機会を設けている。家族様にも協力をいただきながらできるだけ希望に沿う外出ができるよう努めている。	コロナ禍のため外出制限が続くなか、利用者の様子に応じて個別にドライブしたり、秋には近隣を回る紅葉狩りのバスドライブも行っている。晴れた日には、事業所周辺の散策に出かけ、草花鑑賞や栗拾い等を楽しんでいる。通院時の外出も貴重な外出機会となっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 北町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に買い物できる機会を設け、レジで支払いが可能な人は可能な限り行っていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。オンライン面会等も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように環境整備に努めている。清潔に安全に過ごせるように心がけ掃除等を行っている。入居者様が落ち着いて過ごせるような空間づくりができるよう、座席や室温、明るさ、音等配慮を行っている。季節に合わせた飾りを一緒に作り、季節感を感じれるような空間づくりを心掛けている。	エアコンや加湿器で空調管理され、吹き抜けの天井のプロペラが空気を循環させている。2ユニットの間には20畳の小上りがあり、昼寝や会議場などで有効に活用されている。壁面には利用者が作成した季節感ある飾り付けがなされ、居心地良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は特に座席を決めず自由な場所で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様一人一人に応じた環境作りとなるよう本人様や家族様と確認を取りながら行っている。ご本人様が安心できるよう、使い慣れたものや好みの物、部屋での過ごし方や習慣を把握し環境づくり等に反映させている。状態に応じてその都度対応している。	各居室にはベッドとトイレ、洗面台、クローゼットが備付けられ、エアコンで温度管理されている。利用者はテレビや衣装ケース、家族写真、化粧品などを持ち込み、編み物などの趣味の作品や誕生日の記念写真などを、好みに応じて飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は分かりやすく動きやすい空間で共有スペースは全体が見渡せ交流しやすい場となっていて安心・安全に行動できる環境となっている。		